

Solan Primary School

4th grade news letter

Venture

Fourth

2023 Jun. 14

「当たり前思考」「有難い思考」

- 21世紀に残したい言葉ランキング 1位
- 彼氏に求めている言葉ランキング 1位
- 自己肯定感を育む言葉ランキング 1位
- 子供が大人からいわれてうれしい言葉ランキング 1位

これらは全て、「ありがとう」の言葉が当てはまります。

日本人がどれだけこの言葉を大切にしており、このわずか5文字どれほど魅力で強いパワーが秘められているかが伝わってくるようです。

もちろん、世界中の言葉に「ありがとう」は存在します。

下のポスターを見たことがある人もいるかもしれません。



しかし、語源はそれぞれの言語によって微妙に違います。

例えば英語。

サンキュー (Thank you) はあまりに有名ですね。

哲学者ハイデッガーによれば「think」の古英語の thencan「思考する」と「thank」の古英語の thancian「感謝する」の語源のルーツは同じであるとのこと。

つまり、サンク (thank) はシンク「think」(考える、思う)に通じます。

「サンキュー (ThankYou)」は、「あなたのことを思ってますよ」ということであり、「あなたからのご恩(親切)を忘れていませんよ」といった心なのでしょう。

ドイツ語の「ありがとう」は「ダンケ (Danke)」。

ドイツ語は、英語と同じゲルマン語派で、ありがとうの語源も英語と同じ関係です。

つまり、「ありがとう」を意味する「ダンケン (danken)」も、「デンケン (denken : 考える)」と語源が同じということなのです。

フランス語の「ありがとうは」メルシー (merci) 。

メルシーは英語の「慈悲」を意味する「マーシー (mercy)」と同じ語源で、「恩恵」という意味です。

イタリア語のありがとうは「グラーツィエ (grazie)」。

語源はラテン語の gratia。これも「恩恵」の意味。

双方ともに、「恩恵に感謝する」の意味から成る言葉です。

韓国語 (ハングル) の「ありがとう」は、「カムサ (感謝) ハムニダ (します)」。「カンシャ」と「カムサ」は、すごく似ていますね。

実際、カムサ (감사) は「感謝」という漢字をハングル書きした言葉だといわれています。(これを「漢字語」と言います)。

漢字語はハングル文字が開発される前から中国大陸から伝わり、使われていたそうです。

「感」は心が強く動くこと。「謝」は相手に伝えること。

相手にしてもらったことによって心が動いたことを言葉として伝える。

そういう意味合いがあります。

では、日本語の「ありがとう」はどうか。

大人の方にとってはよく聞く話かもしれませんが、ありがとうは漢字で書くと「有り難う」となります。

有ることが難しい。起こることは中々ない。

つまり、「滅多にないこと」「とても貴重なこと」という意味を表す言葉で、もとは仏教からきた言葉です。

由来としては、文教の開祖であるお釈迦様がお弟子さんに話した内容から生まれたという説が残っています。

「盲亀浮木」（もうきふぼく）という話です。

こんな風に話は始まります。



「そなたは人間に生まれたことをどう思っているか」



「大変喜んでおります」



「では、どれくらい喜んでるか」



「どれくらいと申しましても……」



「では、人間に生まれることはどれほど有難いか、たとえをもって教えよう」



「果てしなくひろがる大海原を思い浮かべるがよい。その底深くに、目の見えない一匹の亀（盲亀）がいる。その亀は100年に一度、海面に顔を出す。

一方、海面には一本の丸太棒が浮いている（浮木）。その丸太の真ん中に拳くらいの大きさの穴が空いている。丸太は波のまにまに風のまにまに波間をただよっているのだ。阿難よ、この眼の見えない亀が、浮かび上がったとき浮木の穴に、ひょいと頭を入れることがあるだろうか」

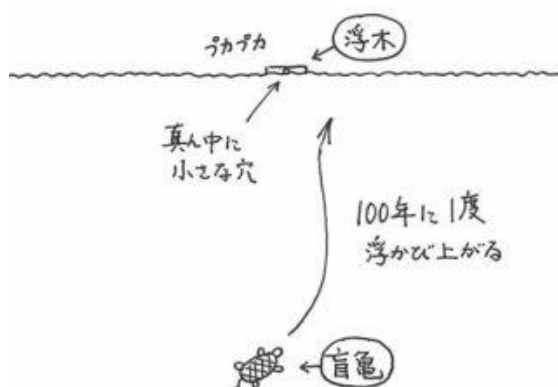


「さようなことはとても考えられません」

図で表すと右のような形になります。
大きな大きな海に小さな小さな浮木。
さらにそこには小さな穴。

この穴に、100年に1度浮かび上がってくる目の見えない亀の頭が入るかどうか。

お釈迦様は、ここで更に問います。



「絶対にないと言いきれるか」



「確かにはいいきれませんが、無いと言ってもよいくらい難しいことです」



「ところが阿難よ、人間に生を受けることは、この亀が、丸太の穴に首を入れることが有るよりも、難しいことなんだ。有り難いことなのだよ」

例えば動物を抜かして昆虫だけで数えてみても、その数は百京（人類の一億倍の数）になるといいます。

単純計算で言えば、人間に生まれる確率は昆虫の一億分の一である。お釈迦様は、これをたとえ話で説いたのです。

滅多になく大変幸運なこと。ここから、「有り難い」という言葉が生まれました。

ちなみに、ありがたいの対義語（反対の言葉）を知っているでしょうか。それは、「当たり前」であるといえます。

勉強ができて当たり前。友達と遊べて当たり前。

運動会が出来て当たり前。学校に来られて当たり前。

文房具が使えて当たり前。ご飯が食べられて当たり前。

家族が元気で当たり前。自分も元気で当たり前。

でも、じっくり考えてみれば、当たり前のことなんて一つもありません。

コロナで、ありとあらゆるものに制限がかかったこの3年間は、私たちにそのことをハッキリと教えてくれました。

毎日当たり前の様に過ごしていた日常が、どれほど尊くて大切なものだったかを私たちは感じる事ができたはずです。

以前、札幌で勤めていた頃の教え子が、一冊の絵本を紹介してくれました。

その子が小さい頃から仲良くしていた友達が、数年前にある病気を患って入院。

その友達が、入院していた頃の生活を作文に綴ったところ、それがノンフィクション文学賞を受賞し、絵本にもなったのだそうです。

それが、右の作品です。

一読して強く感じたのは、「日常の有難さ」です。

日々こうして過ごせることの素晴らしさです。

どんなことにも言えますが、「当たり前」と思うと文句が出ます。

反対に「有り難い」と思うと、感謝が生まれます。

心の持ち方一つで、生まれてくる感情が違うこの事実も、学校でぜひ伝え続けていきたいと思っています。

もう少し言うと、こうした有難いと思える心の持ちようは、自分自身の力の出方にも大きくかかわっています。



以前、ある本で次の言葉を読みました。

「感謝する心」のとき、人の持つエネルギーは最大になる。

遺伝子学の権威である筑波大学・村上和雄博士も同様の事を述べています。

ヒトの遺伝子は、20世紀の終わりに概ね解読されました。

その結果、全遺伝子の内たったの2%しか働いていないことが事実として判明します。

つまり、遺伝子の98%は眠っている状態です。

眠っている遺伝子のスイッチをオンに出来れば、人の可能性は何倍にも膨らむと言われています。

そのスイッチのオン・オフに大きく関係しているのが、「心」です。

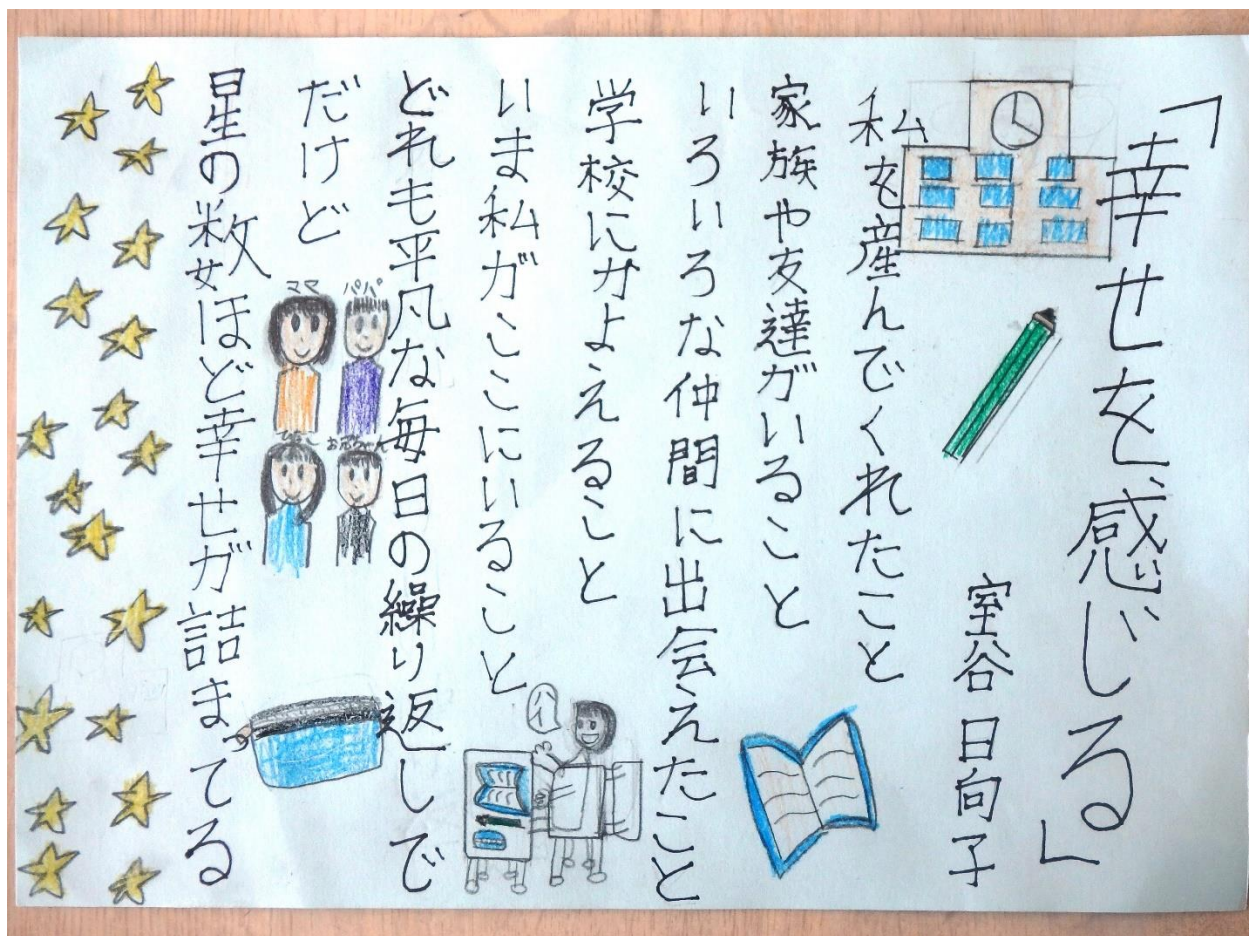
では、どんな心の持ち方がスイッチをオンにするのか。

村上博士によれば、それには次の3つが必要なのだそうです。

「高い志」「感謝する心」「プラス思考」

いずれも“心の在り方”であり、人としての生き方に関わる部分です。さらに、こうした心の在り方は身近な存在の影響を多分に受けるそうです。子どもたちのよりよい成長を支えるためにも、学校で一番身近にかかわる大人として、まずは自分の心の在り方を点検しながら日々を過ごします。どんなことでも“当たり前”と思うと文句が出ますが、“ありがたい”と思うと感謝が芽生えます。

「当たり前思考」ではなく、「有難い思考」で1年を進みたいと思っています。(札幌の時の教え子が書いた詩を一篇紹介します。)



☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

